

境界性パーソナリティ障害 診断基準（DSM-IV-TR）

(アメリカ精神医学会提供)

対人関係、自己像、感情などの不安定性及び著しい衝動性の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。

以下のうち 5 つ（或いはそれ以上）によって示される。

1. 現実的に、又は想像の中で見捨てられることを避けようとする
なりふりかまわない努力
(注：基準 5 で取り上げられる自殺行為又は自傷行為を含めない)
2. 理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい
対人関係様式
3. 同一性障害：著明で持続的な不安定な自己像又は自己感
4. 自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも 2 つの領域に亘るもの
(例：浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、むちや食い)
(注：基準 5 で取り上げられる自殺行為又は自傷行為を含めない)
5. 自殺の行動、そぶり、脅し、又は自傷行為の繰り返し
6. 顕著な気分反応性による感情不安定性
(例：通常は 2~3 時間持続し、2~3 日以上持続することは稀な、エピソード的に起こる強い不快
気分、苛立たしさ、又は不安)
7. 慢性的な空虚感
8. 不適切で激しい怒り、又は怒りの制御の困難
(例：しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取つ組み合いのけんかを繰り返す)
9. 一過性のストレス関連性の妄想性観念、又は重篤な解離性症状